

2025. 9. 11 国旗と個々の「好き」がつながり始める

5月前半より、国旗の興味を持ち始めたR男。きっかけはお子様ランチの塗り絵をしていた時、真っ白の国旗の部分を見て、「なんの色を塗ろうかなー？」と国旗掲示を見たことです。4月後半に、他の子たちが国旗に興味を示していたので、環境としていろいろ掲示や遊びの提案はしていました（4.22「国旗との出会いから」投稿）R男は、その時は国旗への興味は示していませんでした。そこから、5月になり、国旗に興味を示していた子も他の遊びに広がっていった、国旗の掲示を一回片付けようかなと思っていた時に、一人興味を示したR男。そこからたまたま国旗に触れて遊び、じわじわと国旗遊びは一人続いていました。

そして9月。シール帳が国旗のページになります。そこでR男の国旗への「好き」が加速します。毎朝、「今日はどの国にしようかなー？」ととても嬉しそうなR男。「今日はジャマイカ！」。そして「イカがジャマするんだよ！」と教師に話します。国旗を通して言葉遊びが始まります。さらには、「先生、長い名前の国があつてね、『あらぶしゅちょうこくれんぼう』だって！全部で、14個もあるよ！」数遊びも含んでいます。昨日は、お月見の月を作ると、「先生、月が書いてある国旗っていっぱいあるんだよ！」と教えてくれました。R男は好きな遊びでは、好きな国旗をたくさん切り取り、箱に入れて遊びます。国旗のパズルもします。紙粘土でバン格拉ディッシュの国旗を作っています。敬老の日のうちわのプレゼントにも国旗のシールを貼り、満足気です。教師もそのR男の熱量に合わせて、環境を通して支えています。R男は国旗遊びを存分に楽しみ、みんなの時間の共有もあり、周囲もそのR男の「好き」を感じ、認めはじめていました。

一昨日、カブトムシ大好きなS男が、国旗の掲示を見て「先生、ヘラクラスオオカブトってブラジルなんだよ！」と言います。そして、「あれ？そうだったかな？ちょっとお家の本に書いてあったから、明日持ってくるよ！」とS男。そして昨日、S男が持ってきた本をみんなで見ると、ヘラクラスオオカブトはメキシコにすることが判明。さらにはゾウカブトがブラジル。コーカサスオオカブトはインドネシアだとわかります。「ヘラクレスはあの国旗のところだ！」そのあと、S男はヘラクレスオオカブトの製作物を作ると、そこに日本の国旗のほかに、メキシコの国旗も書いていました。S男の「好き」から、世界のカブトムシ、国旗への興味とつながっていきます。

預かり保育の時に、JICAの方はトンガの話をしてくれました。トンガはそろばんを教えていること、ココヤシのジュースが飲めることなどいろいろ現地のことを教えてくれましたが、その中の一つにトンガの国旗も紹介してくれました。すると、「あれ？病院のマークがついている！？」。手作り帽子にいつも日赤のマークを付けるのが好きなT子が反応をします。「トンガって救急車の国？」「えー！！」子供たちなりに国旗の模様の面白さを味わい、興味がさらに広がっていきます。

また国旗パズルが大好きなI男の横で、恐竜遊びをしていたK男は、恐竜にエジプトとカナダの国旗を貼り、どこの国の恐竜でしょう？とクイズを始めます。先日から紹介している「100かいだてのいえ」にT男は「国旗の部屋」を描いていました。子供たちの遊び方・かかわり方は本当にいろいろです。

何か、お互いの「好き」が響きあい、つながりあうことで、新たな気づきを生んだり、豊かな遊びにつながったりしているように感じました。そこに、カブトムシのように知識としても深まっていく姿も見られます。また進級して半年近く過ぎ、個々の「好き」も充実し始めているからこそ、自発的につながりが生まれ、子供たちなりの広がりが生まれるのかもしれません。とにかく教師がその様子を見ていてワクワクするのです。バレーや

野球なども世界大会をしています。いろいろなアプローチから国旗の面白さ、さらには世界への興味へ、遊びを通して広がっていくといいなと考えています。

